

# 福島第一原子力発電所 5・6号機の現状について

(5・6号機低レベル滞留水の状況)

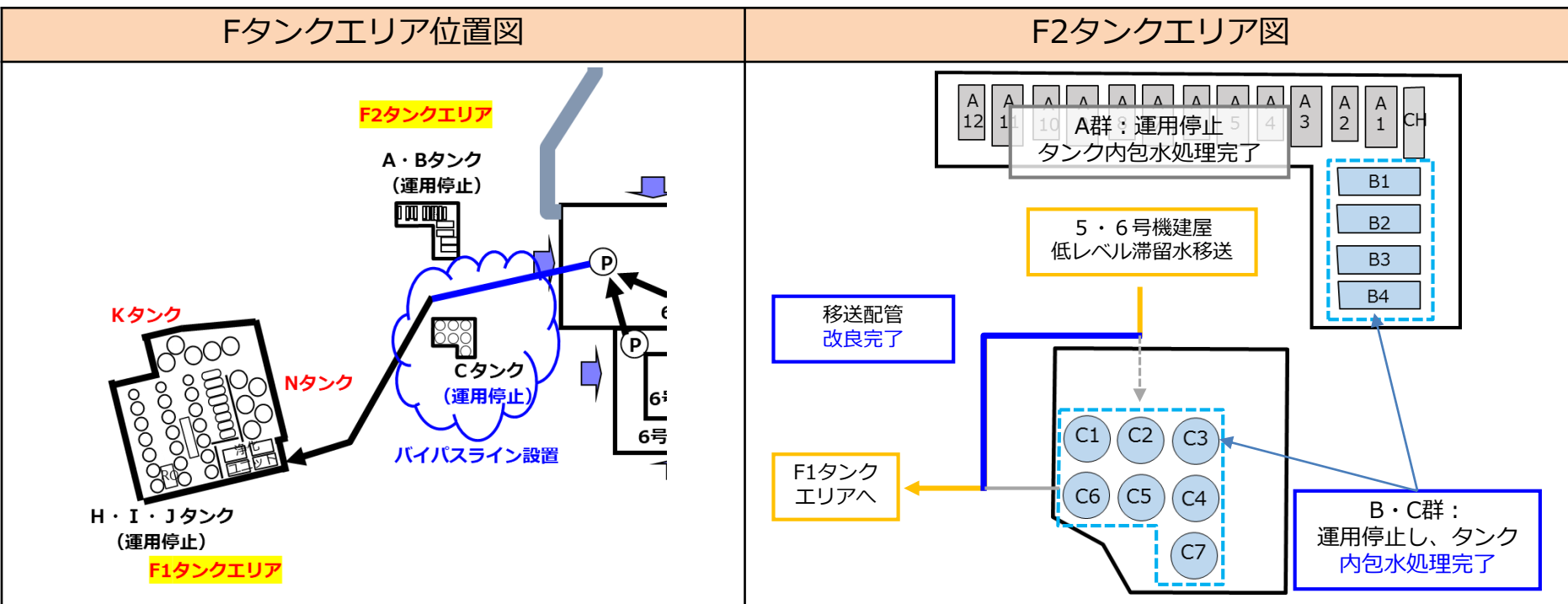
2024年3月28日

---

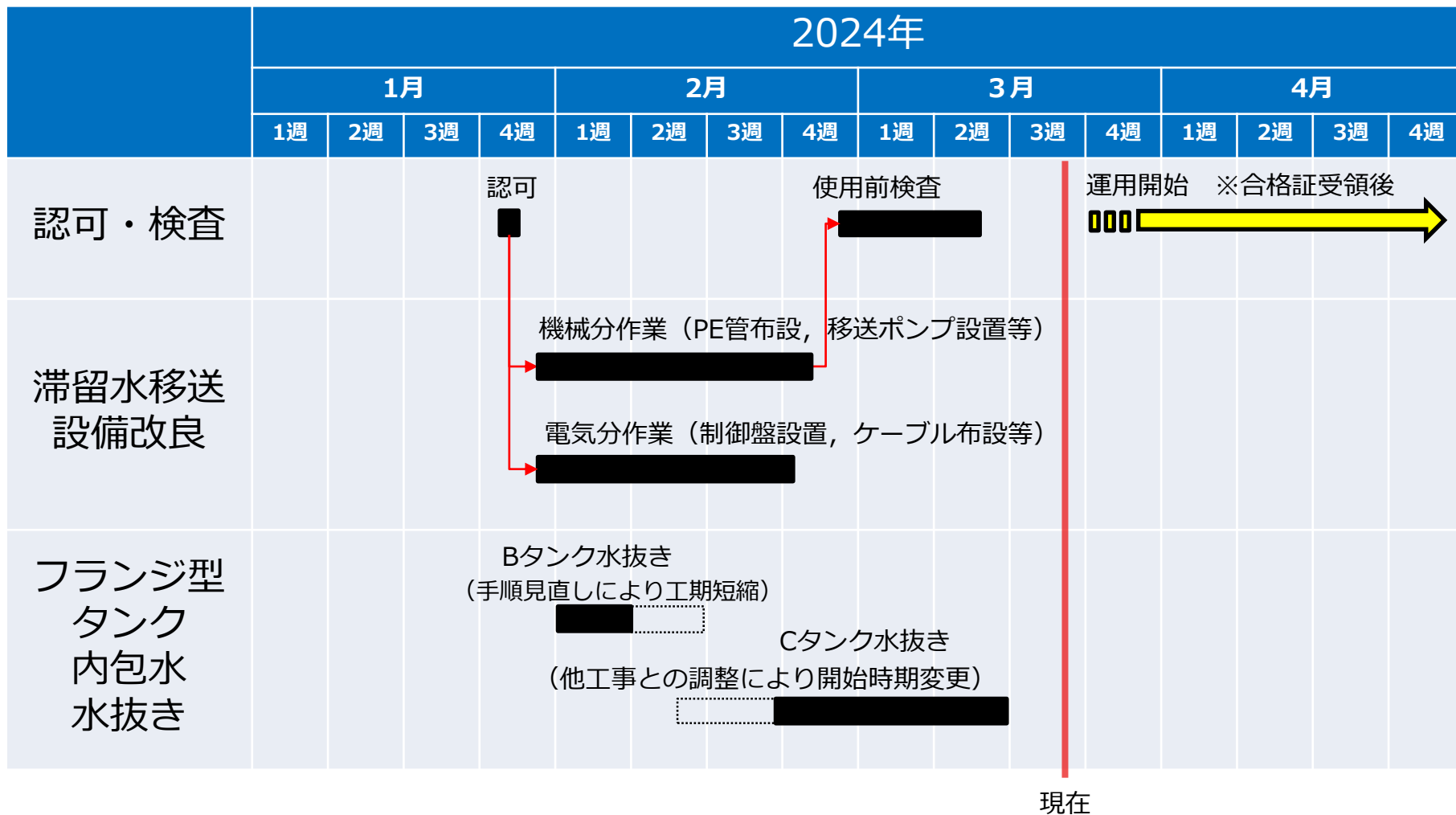
東京電力ホールディングス株式会社

- 56号機屋外（F1・F2タンクエリア）において、地震等による漏洩リスクを除去するため、フランジ型タンク（B・C・H・I・J群）の運用を停止した。
- 揚程確保のための中間タンク（C群）については運用停止に併せてC群タンクバイパスラインを設置し、使用前検査を完了した。検査合格証を受領後、運用開始予定。
- フランジ型タンクB群，C群ともに内包水の抜き取りを完了し、漏洩リスクが無い状態としている。  
現在、撤去時期を調整中。

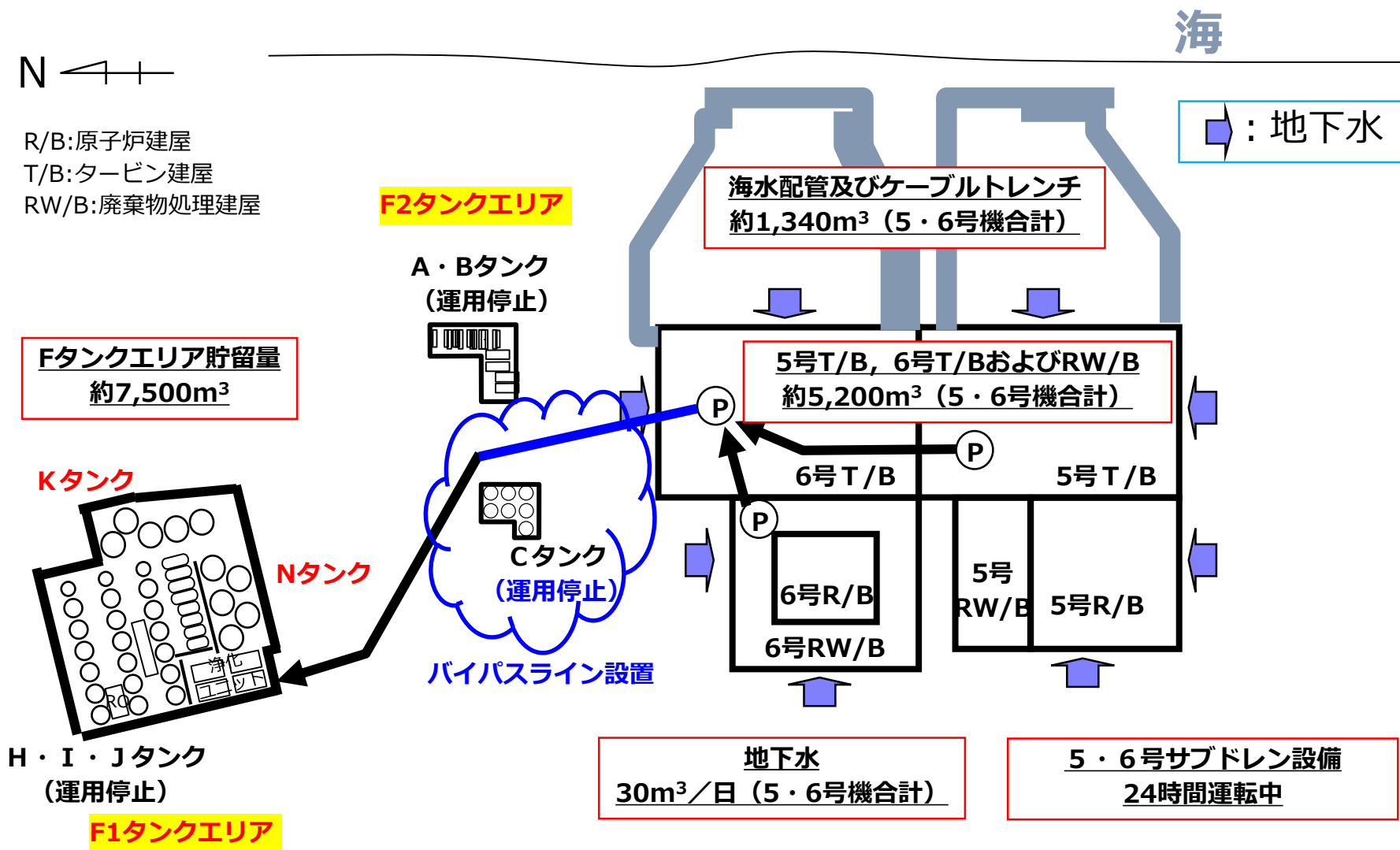
- 地震等による漏洩リスクを除去するため、フランジ型タンクの運用停止、及び内包水処理を実施した。
- 56号機（F1・F2タンクエリア）のフランジ型タンクは、B・C・H・I・J群タンク。
  - H・I・J群（21基）：運用停止・内包水処理完了（2022年10月）
  - B群（4基）：運用停止・内包水処理完了。（2024年2月）
  - C群（7基）：揚程確保の中間タンクのため、バイパスラインを新設した後に運用停止し、内包水処理を完了。（2024年3月）



<凡例>    — : 移送配管 (新設)    — : 移送配管 (既設流用)    — : 移送配管 (運用停止)    ⋯ : 配管取外し箇所



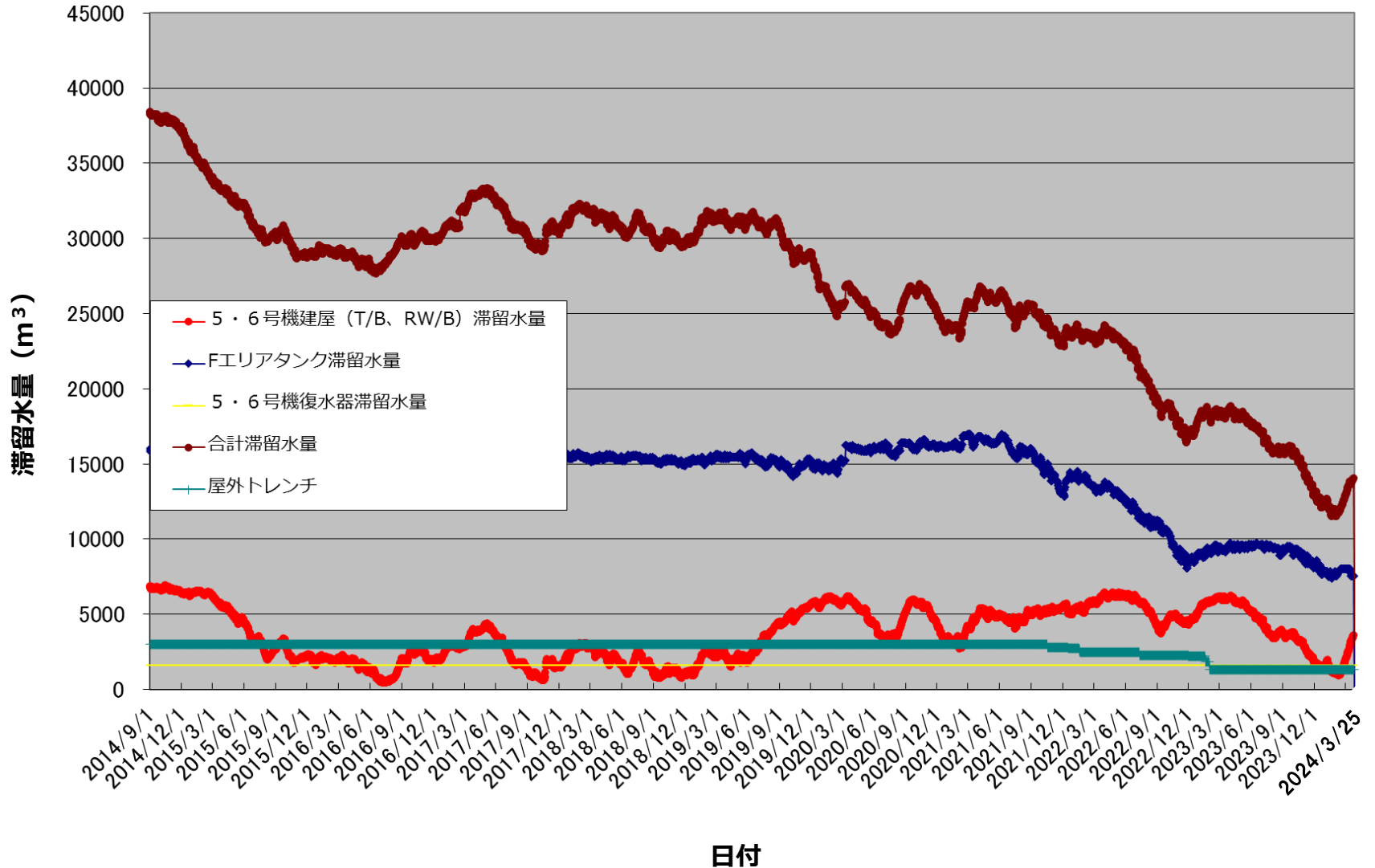
5・6号機 低レベル滞留水量の合計約14,040m<sup>3</sup> (2024.3.25現在)



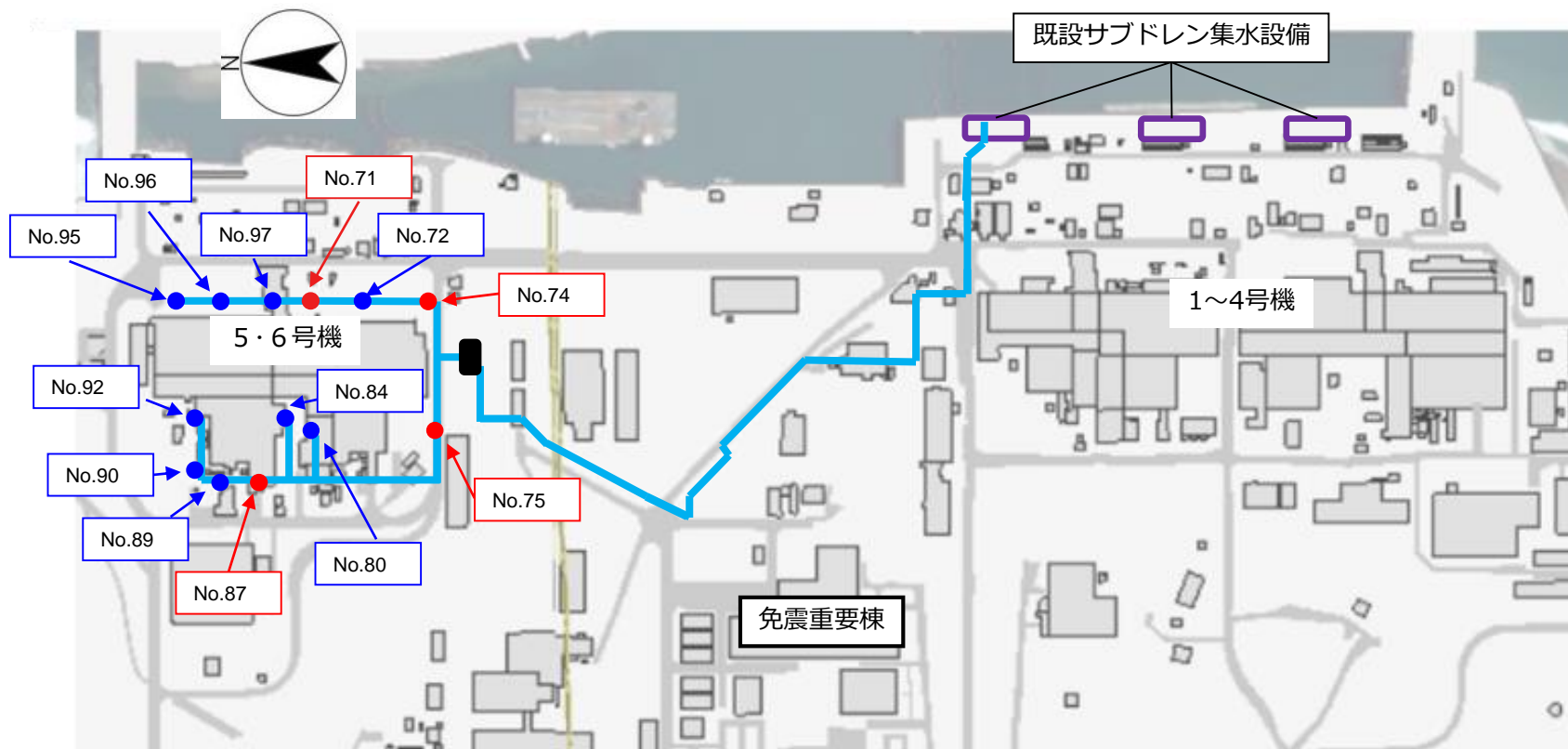
※1 : 5・6号機滞留水は、1-4号機滞留水と比べ放射能濃度が十分低いため、区別する目的で「低レベル滞留水」と記載する。

- 2014年9月から2024年3月までの5・6号機 低レベル滞留水量の推移は以下のとおり

**5・6号機 低レベル滞留水量の推移**



- 5・6号機サブドレン設備は2022年3月28日より運用（移送）を開始し、現在は24時間運転中※2



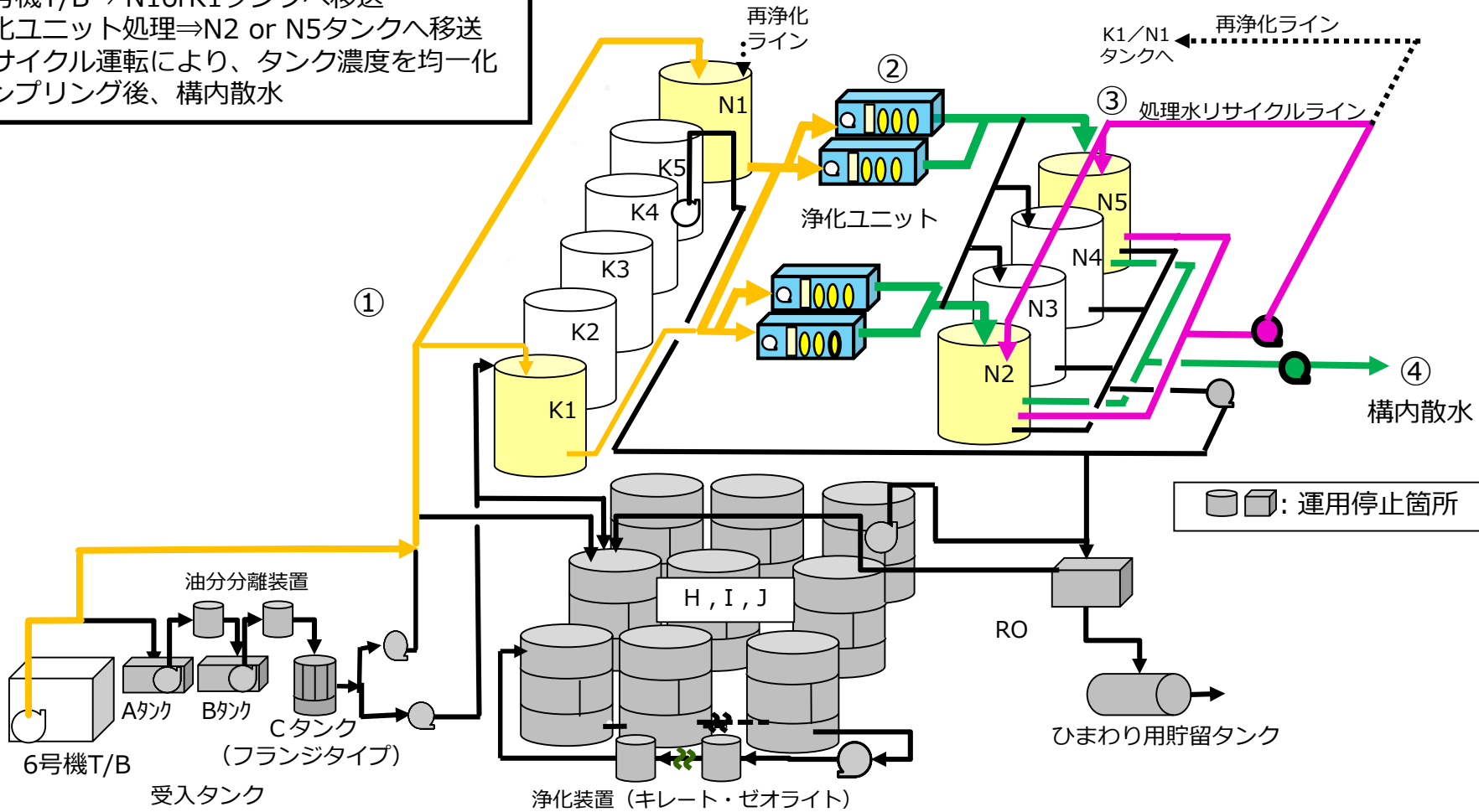
- : 配管布設ルート（約1,900m）
- : 中継タンク設置済（2基）
- : 運転中のサブドレンピット・ポンプ(9箇所)
- : 停止中のサブドレンピット・ポンプ(4箇所)

※2：汲み上げ量の監視を行いながら、サブドレンピット・ポンプの運転計画を立てている。

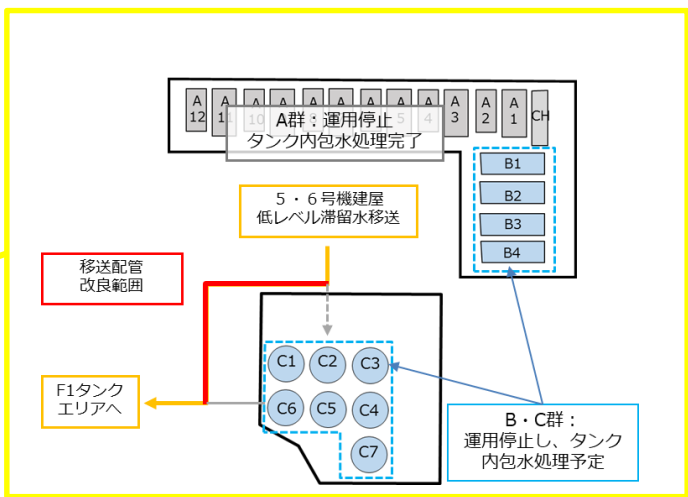


## 【5, 6号機建屋滞留水処理方法】

- ① : 6号機T/B⇒ N1orK1タンクへ移送
- ② : 浄化ユニット処理⇒N2 or N5タンクへ移送
- ③ : リサイクル運転により、タンク濃度を均一化
- ④ : サンプルング後、構内散水

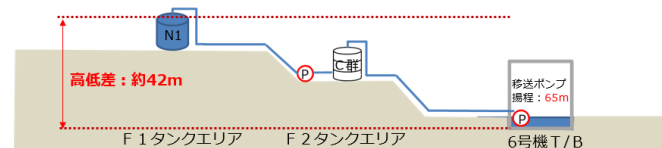


<凡例> — : 滞留水ライン — : 処理水ライン — : 処理水リサイクルライン — : 運用停止ライン



▶ 現状

- ・漏洩リスク低減のため、Fタンクエリアのフランジ型タンクの運用を停止する必要がある。
- ・現在使用している、5・6号建屋滞留水移送ラインの中間タンク（C群）が対象に含まれる。

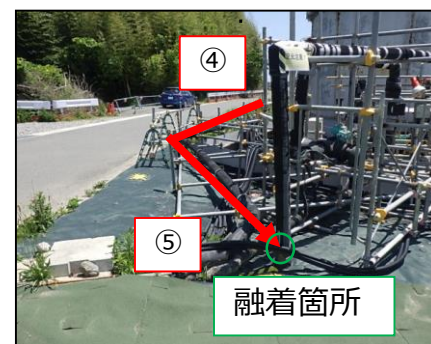
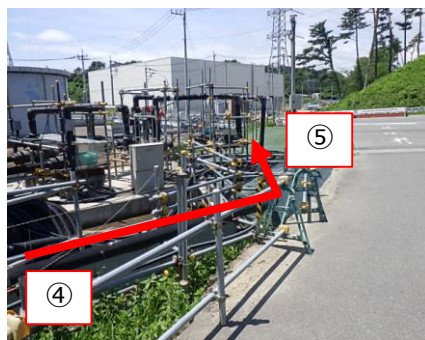
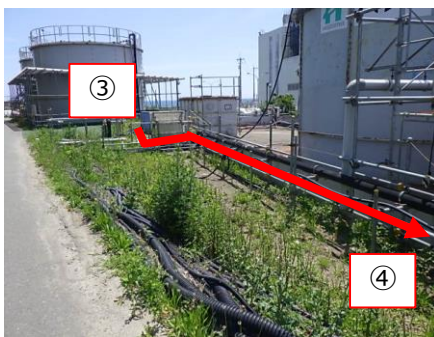
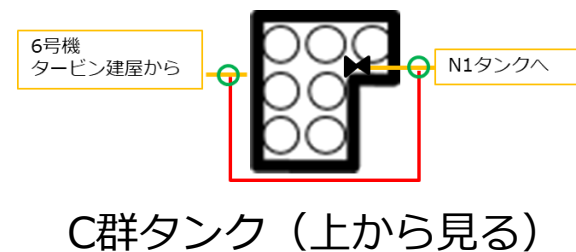
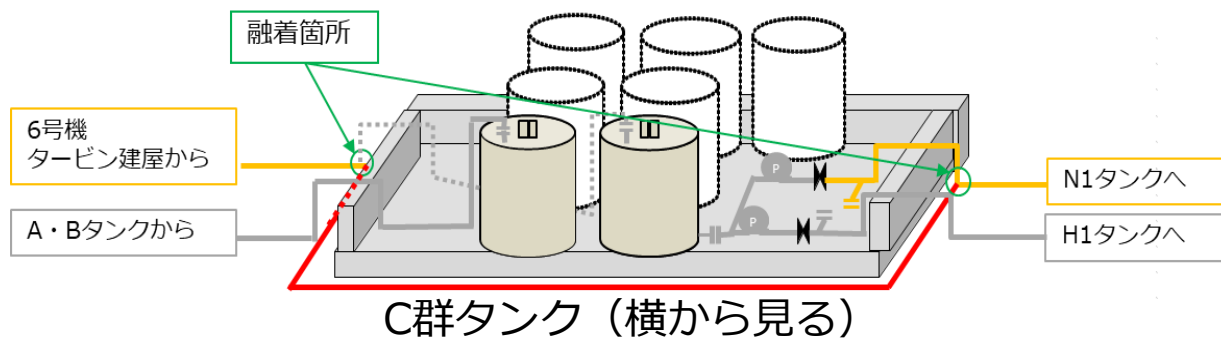
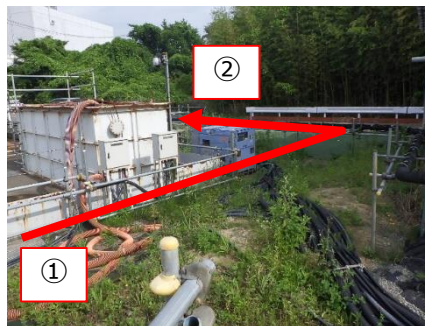


▶ Cタンク運用停止後

- ・C群タンク運用停止に伴い、6号機T/BからN1タンクへ直接滞留水を移送する配管を設置。
- ・既存の滞留水移送ポンプ（揚程：65m）では、N1タンクまで滞留水を移送出来ないため、滞留水移送ポンプの基本仕様を変更する。（揚程：93m）



<凡例>    — : 移送配管（新設）    — : 移送配管（既設流用）    — : 移送配管（運用停止）    ---- : 配管取外し箇所



<凡例> — : 移送配管 (新設)    — : 移送配管 (既設流用)    — : 移送配管 (運用停止)    ⋯⋯ : 配管取外し箇所    : Cタンク